

---

---

外国語教育研究

Foreign Language Institute

# センター年報

---

---

2015年度



金沢大学外国語教育研究センター

## 目 次

巻頭言	1
スタッフ	2
組織	3
2015 年度事業報告	
日誌／FD 出張日誌	4
外部資金獲得研究	5
シンポジウム	6
研究会	6
新カリキュラム担当教員のためのワークショップ EAP	8
新カリキュラム担当教員のためのワークショップ 国際準備クラス	9
セミナー	10
学習支援事業	11
留学支援事業	12
検定試験・検定模擬試験	13
社会貢献事業	14
その他の活動／購入語学教材	15
センター刊行物／スタッフの出版物	16

## 新しい外国語教育の組織へ

センター長  
澤田茂保

外国語教育研究センターは、平成8年5月設置以来およそ20年の歴史の幕を閉じて、新年度に国際基幹教育院外国語教育部門としてスタートする。発足当初は12名（実員）の小さな組織であった。その後、未補充定員の充足や全学的な組織改革による他部局からの教員異動などで総勢20名となり、さらに、昨年度スーパーグローバル大学創成支援事業で特任教員の採用があり、新組織では24名（定員）で出発することになる。

本センターの設置の事由は、大学設置基準の大綱化により一般教養・専門の課程区分が消え、多くの国立大学で教養部所属教員の学部配置となったが、金沢大学ではすべての外国語担当教員が学部分属するのではなく、外国語教育の種となるような組織を残す、ということであったと思う。そのため三部局（教養部、教育学部、文学部）のポストを使って設置された。私は教育学部から異動した。

課程区分の廃止で、教養教育は全学出動態勢となり、すべての教員が担うべきものとされた。外国語教育でも、当初は学部が主体で教養教育が運営されていた。しかし、その間に教養教育の「形骸化」という言葉がささやかれ、上述の組織改革により、学部から本センターに教員異動があった。その際、共通教育（＝教養教育）の外国語科目の企画・運営を中心的に担う組織と位置付けられて、以後は外セ教員が英語教員集団の代表幹事を担ってきた。英語の場合、学部が主体の時代には、代表幹事は2年任期のルールであったが、実際は6年間で5人代わった。開講規模が大きく大変であったからである。だが、この組織改革以後、私が英語の代表幹事を8年間務めた。その過程で「形骸化」云々という言葉は聞かなくなったので、それなりに責任を果たしたのかなと思っている。もちろん、何もなくて当たり前で、何かあれば非難を浴びるような役目なので、外からは評価してもらえないかも知れないが…。

もうすこし個人的な思い出を書くと、発足当時、大瀧敏夫初代センター長の考えもあり、センター教員は外国語教育の新しいスタイルを模索するようなふうがあった。私はずっと前から試みたかった「英語ニュース」を使ったりリスニング授業を実践しようと思った。リーディングの古典的な教授法にgrammar-and-translationという教育法があるが、私の場合はgrammar-and-listeningとも言うべき方法で、英語が聞き取れない原因を音の実態に遡って体で覚えさせようとするものである。BS放送のABC Newsを素材とする自主教材だったので、教材準備は大変であったが、授業自体は他者にはまねできないという自負もあり、やりがいもあり面白かった。シラバスに「高校までの英語は教科書に守られた温室英語」、「温室英語から外に飛びだそう」と書いたら、「大変だと聞いたが、挑戦しようと思って選んだ」という学生もいて、金沢大学の学生も捨てたものではないと思った。学生は厳しいが故に達成感を感じるようで、最後のレポートでそのようなことを書いてくれた。

だが、その授業も新年度施行の新カリキュラムでは実践する場がなくなる。共通シラバス・共通教材となったからである。これは悲しくもあり、仕方がないことなのかもしれない。20年間で金沢大の学力が多様化し、authenticな教材利用に限界を感じ始めていたからである。だから、共通シラバス・共通教材による教育内容の標準化は必要なことである。だが、何事にもすべてよい面ばかりではない。教育内容の標準化は教員の創意工夫を奪う面を持っており、結果的に単調さを生みがちである。とくに外国語学習では動機付けが大切で、それをいかに与えるか、これは新体制においても不変の課題であると思う。

## スタッフ

### 英語

**John Earl** (ジョン・アートル) 准教授  
文化人類学

**榎本 剛士** (えのもと たけし) 准教授  
言語人類学、社会語用論

**大藪 加奈** (おおやぶ かな) 教授  
英語文学、英語教育

**數見 由紀子** (かずみ ゆきこ) 教授  
英語学・言語学

**小林 恵美子** (こばやし えみこ) 教授  
コミュニケーション学・日米比較文化論

**澤田 茂保** (さわだ しげやす) 教授  
英語学・言語学

**ダガン さがの** (ダガン さがの) 特任准教授  
第二言語習得、異文化コミュニケーション

**西嶋 愉一** (にしじま ゆいち) 准教授  
自然言語処理

**根本 浩行** (ねもと ひろゆき) 准教授  
社会言語学

**Mark Hammond** (マーク・ハモンド) 特任准教授  
英語教授法

**John Bintliff** (ジョン・ビントリフ) 教授  
英語教育

**ブルカート 香織** (ブルカート かおり) 特任准教授  
異文化理解教育、カリキュラム開発

**Lewis Murray** (ルイス・マリー) 特任助教  
英語教授法

**結城 正美** (ゆうき まさみ) 教授  
アメリカ文学・環境文学

### ドイツ語

**早川 文人** (はやかわ ふみと) 准教授  
ドイツ文学

**Bastian Nonnenberg**  
(バスティアン・ノネンベルク) 講師  
現代日本社会研究・ドイツ語教育 (9月退任)

**Henning Maurer** (ヘニング・マウラー) 講師  
現代日本学

### フランス語

**三上 純子** (みかみ じゅんこ) 教授  
フランス文学

### ロシア語

**平松 潤奈** (ひらまつ じゅんな) 准教授  
ロシア文学

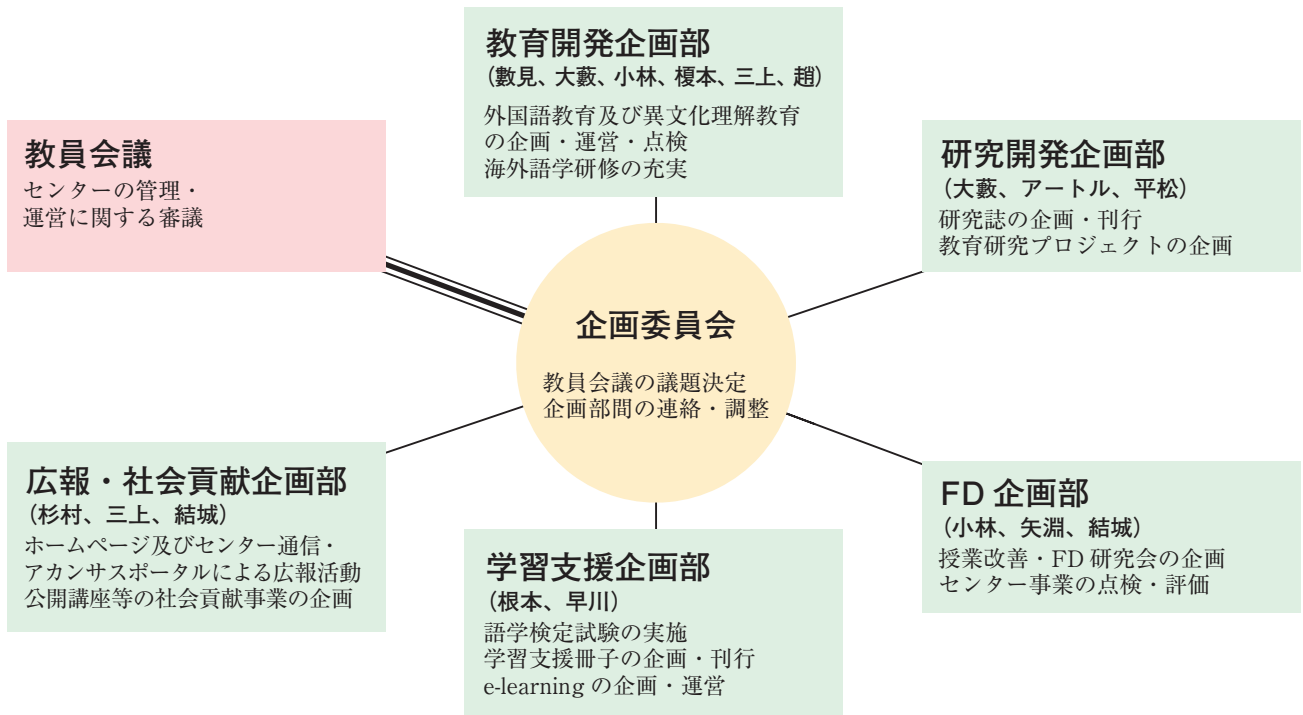
### 中国語

**杉村 安幾子** (すぎむら あきこ) 准教授  
中国現代文学

**趙 菁** (ちょう せい) 准教授  
日本語学・日中言語比較

**矢淵 孝良** (やぶち たかよし) 教授  
中国古典文学

**趙 煒宏** (ちょう いこう) 准教授  
中国語教育



# 2015年度事業報告

## 目 誌

- 2015年**
- 6月8・15日 ドイツ語検定模擬試験及び対策講座
  - 6月15・17・18日 フランス語検定模擬試験
  - 6月15日～7月1日 ランチョンセミナー「外国語学習特集」
  - 6月28日 第86回中国語検定試験
  - 7月4日 IELTS
  - 7月28日 第1回FD研究会「シティカレッジにおける言語科目授業の現状と課題」
  - 8月4日 第2回FD研究会「金沢大学1年生の英語能力の現状と課題」
  - 8月10・11日 オープンキャンパス
  - 8月27・28日 TOEICテスト夏季集中講座
  - 9月3・4日 TOEICテスト夏季集中講座
  - 9月12日 IELTS
  - 9月14・15日 TOEICテスト夏季集中講座
  - 9月24・25日 IELTS対策2日間集中講座
  - 11月6・9・11・12日 フランス語検定模擬試験
  - 11月18日 講演会「EAPプレゼンテーションワークショップⅠ」
  - 11月22日 第87回中国語検定試験
  - 12月6日 2015年度秋季ドイツ語技能検定試験
  - 12月8日 EAPワークショップ及び説明会
- 2016年**
- 1月9日 IELTS
  - 1月20日 イーラーニング説明会
  - 2月15・16日 TOEICテスト春季集中講座
  - 2月16日 EAP2テキストセミナー
  - 2月22日 第3回FD研究会「初習言語の派遣留学生の実力養成に向けた効果的なサポート体制の構築を目指して」
  - 2月23日 TOEICテスト春季集中講座
  - 3月7・8日 TOEICテスト春季集中講座
  - 3月19日 IELTS
  - 3月25日 TOEICテスト春季集中講座
  - 3月27日 第88回中国語検定試験
  - 3月末日 『言語文化論叢』第20号発行
  - 3月末日 『外国語教育フォーラム』第10号発行
  - 3月末日 『センター通信年報（2015年度）』発行

## FD出張日誌

- 6月6～8日 趙煒宏 中国語教育学会全国大会
- 6月14～16日 趙煒宏 中級中国語の教学研究
- 7月5～7日 趙煒宏 中級中国語の教学研究

8月7～28日	根本	内容言語統合型学習法の研修、データ収集
8月29日～9月4日	ダガン	ワイカト大学語学研修の調査
9月25～27日	根本	国際言語管理シンポジウム
10月24～26日	趙煒宏	中級中国語の教学研究
10月24日	澤田	英語語法文法学会大会
11月21～23日	趙煒宏	中級中国語の教学研究
11月28日～12月5日	根本	オーストラリア・ニュージーランド応用言語学会
12月12日	數見	JACET中部支部講演会
1月7～14日	ビントリフ	IICTCHawaii2016
1月16～18日	趙煒宏	中級中国語の教学研究
2月19～21日	西嶋	TOEICテストスコアアップ指導者養成講座
3月4～6日	西嶋	TOEICテストスコアアップ指導者養成講座
3月19～20日	榎本	社会言語科学会研究大会

## 外部資金獲得研究

◎資金の種別、年度、研究課題名、研究者名の順で示してあります。

### 新規

科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究 2015年度－2017年度

「中国現代文学における通俗小説——Xu Xu・Wumingshiを中心に」杉村安幾子

科学研究費補助金 若手 (B) 2015年度－2018年度

「ラジオ放送の文学番組からみるオーストラリア・ファシズムの文化政策とその影響」早川文人

2015 Watanabe Trust Fund Research Grant

“Literary Studies of Climate Change Issues and Research on Environmental Humanities in Iceland” 結城正美  
スカンジナビア・ニッポン ササカワ財団2015年度助成

「気候変動問題への文学的アプローチの研究ならびにアイスランドの環境人文学に関する調査」結城正美

### 継続

科学研究費補助金 基盤 (C) 2014年度－2016年度

「日本人高校生によるいじめの原因調査」小林恵美子

科学研究費補助金 基盤 (C) 2014年度－2017年度

「鈴木胤の養生論における儒学の受容に関する研究と関連著作の注釈書の作成」趙菁

科学研究費補助金 基盤 (C) 2014年度－2017年度

「社会文化理論を用いた第二言語学術リテラシーの発達と異文化能力習得過程の研究」根本浩行

科学研究費補助金 基盤 (C) 2013年度－2015年度

「Spoken languageの文法論に向けた英語表現におけるタグの研究」澤田茂保

科学研究費補助金 若手 (B) 2013年度－2015年度

「Diversity in Archaeology and Cultural Resource Production in Japan」John Josef Ertl

科学研究費補助金 若手 (B) 2012年度－2015年度

「ソヴィエト的主体形成における所有と交換：スターリン期の公式文学研究」平松潤奈

平成27年度北陸地区国立大学学術研究連携支援 2014年度－2015年度

「中華圏モダニズム研究会北陸分会」杉村安幾子、齊藤大紀（富山大学人文学部）、田村容子（福井大学教育地域科学部）



## シンポジウム

# Toward the New English Curriculum

(9月29日)

外国語教育研究センターでは、9月29日（火）に、学内シンポジウム「Toward the New English Curriculum」を開催しました。このシンポジウムは、2016年度に予定されている共通教育新カリキュラムのうち、GS言語科目（英語科目）の案の報告と、関係教員による情報共有を主な目的として企画されました。GS言語科目の担当予定者を中心に、41名の参加がありました。



はじめに、澤田センター長から、GS言語科目の構成とクォーターごとの開講予定等の概要が示されました。GS言語科目はTOEIC PreparationとEAP（English for Academic Purposes）の二つのコースからなり、それぞれIからIVの4つの授業（各8週間）から構成されます。

つづいて、TOEIC PreparationとEAPの各コースの紹介・説明がありました。TOEIC Preparationについては、西嶋教員によるコース全体の説明（授業の目標や学生の学習目標等）の後、ビントリフ教

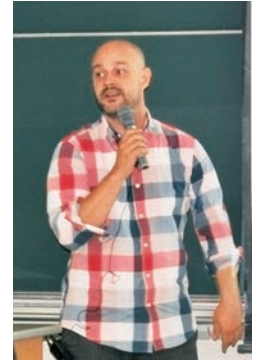
員とダガン教員から各授業の共通シラバス案の報告と共通テキストの紹介、ブルカート教員からは成績評価と共通テストに関する説明がありました。

EAPについては、大藪教員によるコース全体の説明の後、授業ごとに詳細が示されました。EAP I（アカデミックライティング）は根本教員、EAP II（パブリックスピーキング）はマリー教員、EAP III・IV（EAP I・IIをふまえた統合型）はアートル教員と榎本教員から、それぞれ説明がありました。



質疑応答も活発に行われ、参加者からの質問や意見を基に現段階の案をより良いものに、という本シンポジウムのもう一つの目的も果たされたものと思います。

（数見由紀子記）



## 研究会

# 「シティカレッジにおける言語科目授業の現状と課題」

澤田茂保、早川文人、三上純子、矢淵孝良（7月28日）

本センターの教員が担当している言語科目（英語、ドイツ語、フランス語、中国語）について、受講者数の推移、社会人と学生との関係など、過去10年ほどの実情を報告し、その問題点を指摘しました。その結果、言語ごとに多少の相違はあるものの、社会人と学生が混在することや受講者間の理解力の差が甚だしいことに起因する授業運営の困難さ、何度も同一科目を受講する人の存在など、共通の課題も浮

かび上がりました。こうした現状をふまえ、今後のあり方について意見交換をしました。そこで特に問題になったのは、本学の共通教育改革との関連です。シティカレッジの授業がクォーター制やGS科目にど





う対応するのか、まだ明らかになっていません。学生受講者の中では圧倒的に本学の学生が多いわけですから、彼らが履修したら確実に単位認定される制度づくりが必要であると同時に、それが無理な場合には開講を取りやめる方向で検討せざるを得ないと

いうのが研究会を終えての結論です。(矢淵孝良記)



## 「金沢大学1年生の英語能力の現状と課題」

小林恵美子、西嶋愉一（8月4日）

来年度より導入されるGS言語科目のTOEIC準備クラスでは、TOEICスコアを用いた成績評価となる。そこで本研究では、2014年度後期と2015年度前期に英語リスニングと英語リーディングの合計7クラス内で実施されたTOEIC模擬試験の



2回分のスコアを分析し、金大生の英語力の現状を紹介した。まず初めに平均点、最高点、最低点、スコア分布等の基礎

データを示した。さらには1回目から2回目のスコア上昇量は理工学域の学生が一番高いことが示された。続いてTOEICスコアシートにあるABILITIES MEASUREDの見方を解説し、英語学習奨励支援制度を利用した1年生のスコア分析や弱点強化に役立つ学習アドバイス例を提示し、実際に効果の上だったケースを紹介した。最後に、金大生の英語能力を正確に把握するためには大規模な経年調査を行うこと、英語学習意欲のない学生を動機付けるための方策を工夫すること、能力別TOEIC準備クラスの充実を図ること等、今後の英語教育改善につながる提言がなされた。(小林恵美子記)

## 「初習言語の派遣留学生の実力養成に向けた効果的なサポート体制の構築を目指して」

矢淵孝良・三上純子・杉村安幾子・早川文人・平松潤奈（2月22日）

今年度、ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語の担当教員は、各言語圏に派遣された留学生に対し、当該言語の学習状況や、留学前後に彼らが望む語学授業について、アンケート調査を実施した。本研究では、その集計結果報告ののち、留学生サポートの充実に向けて活発な議論がなされた。特に、四言語すべての調査結果に共通していたのは、「留学後に、留学した言語圏から来た外国人留学生と一緒に学べる授業」への学生の強い関心であり、これに対しては、ジョイントクラスを設置する、授業外で留学経験者・予定者と外国人留学生とが交流できる

機会を設ける等の対応案が挙げられた。その他、英語の学習支援に倣い学生どうしの勉強会をう



ながす支援をしてはどうか、派遣留学の学内条件に外部試験をどの程度取り入れるべきか、習得言語を語学以外の専門科目にどう活用できるかなど、話題は多岐にわたり、今後の留学支援のために多くの示唆が得られた。(平松潤奈記)

## 新カリキュラム担当教員のためのワークショップEAP

### 第一回

## 「Teaching Presentation to Kanazawa University Students」

バーバラ・キャンベル（エジンバラ大学英語教育センター）（11月18日）

金沢大学は、2016年度より共通教育カリキュラムを刷新し、英語科目もTOEIC準備コースとEAP（English for Academic Purposes）コースの2本立てのカリキュラムとなります。そこで、EAPコースの第一回教員研修として、英国エジンバラ大学英語教育センターのバーバラ・キャンベル氏をお招きし、プレゼンテーションの授業のしかたに関するワークショップを11月18日に行いました。



金沢大学が、エジンバラ大学の英語研修に学生を送りはじめて、10年以上になります。エジンバラ研修では、最終日に学生がプロジェクト学習の総まとめをプレゼンテーションの形で行っています。キャンベル氏は、毎年金沢大学生のプレゼンテーション準備授業を担当されていますので、本学学生のプレゼン

テーション力向上に効果があったと思われる授業実践を紹介して頂き、参加者がいくつかの活動を体験するワークショップ形式で教員研修を行いました。

まず始めに、多くのトピックが列挙してあるリストから、学生が自分でトピックを選んで話す活動や、相手の話にあいづち等を打つ活動をとおして、学生が自信を持って発言するよう促す方法が紹介されました。また、良いプレゼンテーションとは何か考えたり、効果的なプレゼンテーション例を分析したりして、学生自身がプレゼンテーションへの意識を高める活動や、発音・ポーズ・イントネーションを楽しく練習することで、人前でのプレゼンテーションや質疑応答に対する、心の垣根を下げる活動も紹介して頂きました。

プレゼンテーションというと、話す内容の文章や構造、ジェスチャー、アイコンタクト、スライド作成などに関心が行きがちですが、キャンベル氏は、まず学生に自信を持たせて、あまり気負わずに人前で英語を話せる環境を作ることを工夫している、と述べておられました。学生がのびのびと英語を使える雰囲気作りのヒントや、すぐに授業で使えるような活動の紹介もあり、大変有意義なワークショップとなりました。（大藪加奈記）

## 第二回「スピーキング指導と評価についての視点」

（2015年12月8日）

株式会社アルクの福江友樹氏をお迎えして開催された第2回のEAPワークショップのテーマは、学生の発語やスピーキングをどのように指導・評価するか、でした。

研修では、スピーキングの各要素を分類し、言語

機能面（言葉を使って何が出来るか）、正確さ（文法、語彙、発音、流暢さ）、コンテキスト（言語使用の状況・内容）、そしてテキストの構造（句・文・段落の使い方）のそれぞれを意識しながら、総合的に指導・評価することの意義や妥当性についてのお話があり

ました。

また、質問に対して「Yes」「No」など一言で答えてしまう学生に対して、答えを繰り返したり言い換えたりして話を受け止め、その話の延長線上にある次の一言を引き出す質問のしかたや、話しやすい雰囲気を作る暖かい沈黙、視線、姿勢などの支持的な態度、話す助けとなるスピーキングの構造など、授業に役に立つ手法を具体的に提案していただきました。学生のレベルによって、使える文法や機能の違いがあることを意識しながらレッスンプランや評価ポイントを作ることは、頭では理解できていても、なかなか実践できないこともありますので、改めて講師と参加者で話しあえたことは有意義でした。

(大藪加奈記)



## 新カリキュラム担当教員のためのワークショップ 国際準備クラス

### 「国際試験準備クラス Oxford University Press Online Learning Workshop」

平成27年10月22日（木）と翌23日（金）に平成28年度導入予定のテキストブック出版社Oxford University Press（OUP）より講師 石橋早希江氏を招き、テキストブックセミナーと連動して、オンライン教材の導入としてワークショップを開催した。来年度新カリキュラム編成時に国際試験準備クラスを担当する教員（非常勤を含む）及びセンターの英語担当教員全員が対象で、各75分のセッションを設け、両日で述べ20名ほどの参加を記録した。ワークショップにはオンラインアカウントの作成やアク

セス方法、模擬試験を含むオンライン教材の使用法、及び教材の機能と管理方法など、具体的な操作方法などが含まれていた。ワークショップ終了後のQ&Aでは、「オンライン教材を導入するにあたり、誰かアドミニストレーターとして統括する必要があるのではないか」という問題点も挙げられた。オンライン教材についてはアクセスなど導入の時点で難点が予想され、国際試験準備クラス企画員会でさらに審議を進める必要がある。（プルカート香織記）

---

## ALC NetAcademy 2 講習会

GS 言語科目「TOEIC 準備」では、テキストと連動するオンライン教材と、既に導入されているe-learning教材のALC NetAcademy 2を副教材として使用する方向で準備が進められている。副教材としてスムーズに活用していただくために、TOEIC準備の授業を担当される先生方を対象とした講習会

を1月20日に実施した。参加者は7名と小規模であったが、活発な質疑が行われ、今後の運営上の課題も明らかになった。来年度に向けて、より良い運営を目指していきたいと考えている。

(西嶋倫一記)



## セミナー

# 「国際試験準備クラス テキストブックセミナー Oxford University Press 講習会」

平成27年10月22日（木）と翌23日（金）に来年度導入予定のテキストブック出版社Oxford University Press (OUP) より講師 ピーコック ロバート氏を招き、セミナーを開催した。来年度新カリキュラム編成時に国際試験準備クラスを担当する教員（非常勤を含む）及びセンターの英語担当教員全員に電子メールで案内状を送付した。二日間で4つのセッション（50分コース2回、75分コース2回）を設け、両日で述べ30名ほどの参加を記録した。セミナーには



テキストブックの概要と付属教材の紹介、国際試験のフォーマットに関連付けた各ユ

ニットの構成とその説明、及びactive learningの具体的な導入例や実践例も含まれていた。各回の終わりに設けたQ&Aでは参加者からも「このような時にはどうしたらよいか」など、具体的な対処法が質問として挙げられていた。セミナー終



了後、参加できなかった教員のため、セミナーのハンドアウトを添付書類として電子メールで送付した。このセミナーが各教員がそれぞれ抱えていた疑問を共有し、ある程度解消する機会になったようで、好評のうちに幕を閉じることができた。

（ブルカート香織記）

## 「EAP II テキストブックセミナー」 Textbook seminar- Successful Presentations: An Interactive Guide

Mark Stafford (2016年2月16日)

This seminar was given by Professor Mark Stafford of Ehime University, author of the above textbook, and was attended by 20 full-time and adjunct instructors. As the textbook has been selected for the EAP 2 Public Speaking course, the workshop provided an opportunity to hear from the author on what informed its content, and his suggestions on how best to apply it within the new EAP 2 syllabus. Among the points Professor Stafford discussed, he emphasized the need to assess content over linguistic ability, which he noted is reflected within the textbook through its

focus on delivery, content and visual aids. He also stressed the value of having students give mini presentations throughout the course to get them accustomed to presenting. The seminar ended with a short question and answer session, allowing for a further exchange of ideas. (Lewis Murray記)



## 学習支援事業

### IELTS 集中講座

ブリティッシュ・カウンシルからIELTSを専門とする英語ネイティブ講師を招き、9月24、25日にIELTS集中講座を実施しました。ブリティッシュ・カウンシル独自の教材とIELTS模試をテキストに用いて行われた本講座には、派遣留学を希望する学生28名が参加しました。1日目はIELTS試験の概要や試験の取り組み方、各スキルへのアプローチの仕方・対策等を学習し、2日目は学生の弱点克服に主眼を置き、講師からフィードバックを受けながら午前はスピーキング、午後はライティングの実践練習をしました。試験で最大限の成果を発揮するための効果的な方略を学ぶだけでなく、論理的に話す・書くにはどうすればいいのかわかり、講座中に得た役に立つ表現、構成法などの知識をトピック別の練習問題で実際に活用し定着を図りました。また、この集中講座に加え、日本英語検定協会による4週間のオンラインライティング講座を年2回開講しました。8月～9月の1回目は派遣留学候補者及び希望者6名が参加し、2月～3月の2回目は17名が受講しました。これらの活動により派遣留学支援の一環としてのテスト対策にとどまらず、論理的英語運用能力の確かな土台づくりができたことも大きな成果と言えるでしょう。(根本浩行記)

### 英語学習アドバイザー& TOEIC®テスト集中講座

スーパーグローバル事業の一環として、本年度から英語学習アドバイザーのプログラムを開始した。本年度はパイロット的位置づけとして、理工学域の3つの学類（機械工学類・電子情報学類・環境デザイン学類）の2年次を対象に、アドバイザーの個人面談による学習カウンセリングと集中講座でTOEIC®スコアアップを目指すこととした。2016年2月の中間まとめでは、それまでに最新のTOEICスコアを提出した76名のうち64名がスコアアップ、33名は100点以上のスコアアップを達成した。個人面談と集中講座による成果としては特筆できるものと考えている。

集中講座は夏季休業中に2日間（計10時間）・3回、春季休業中には2日間（6時間）を1回、1日（内容に応じて3時間・4時間・5時間）を3回実施した。プログラム参加者だけでなく全学を対象に受講受付

を行ったが、夏季は100名以上の参加があり、春季は予約段階で120名以上の申し込みがあった。

また、10月からは総合教育棟にて週2日、全学を対象とした個人面談と昼休み英会話レッスンを実施した。こちらも順調に推移している。(西嶋愉一記)

### ランチョンセミナー「外国語学習特集」

本センター主催のランチョンセミナー「外国語学習特集」では、センターのスタッフを中心に6月15日から12回の講義を昼休みに行った。参加者にとって、語学学習の秘訣だけでなく、留学の情報や先輩たちから直接体験談も聞くことができる機会が得られた有意義なセミナーとなった。(早川文人記)



- 第1回 パソコンで英語学習！ ALC NetAcademy2  
を使ってみよう 西嶋 愉一
- 第2回 大学生としての継続的英語学習法  
小林恵美子
- 第3回 エジンバラ大学英語研修 ルイス・マリー
- 第4回 フランス語の魅力と学び方 — 先輩、留学生、  
教員からのアドバイス 三上 純子
- 第5回 IELTSで勝ち取る派遣留学！：試験対策と  
IELTS勉強会 根本 浩行
- 第6回 「SG（スーパーグローバル）英語プログラム」  
への招待 榎本 剛士
- 第7回 今日からはじめるTOEIC対策 西嶋 愉一
- 第8回 外来語から見える中国の文化と言語の面白  
さ 趙 菁
- 第9回 モナシユ大学語学研修体験談 根本 浩行
- 第10回 ドイツ語の魅力と学び方  
早川 文人、バスティアン・ノネンベルク

第11回 交換留学生によるロシア留学案内ーカザン  
連邦大学を紹介します 平松 潤奈

第12回 朝鮮語の魅力と学び方  
宋 有宰 (非常勤講師)



## 初習言語履修ガイダンス

4月2、3、6日に新入生を対象とした初習言語の履修ガイダンスを実施した。教科書等を並べたブースで、本センターを中心とした初習言語の担当者が各言語の特徴や魅力を紹介し、履修相談に応じた。学生たちは授業内容や語学研修について質問して、興味のある言語に関する情報を収集していた。来年度以降は共通教育のカリキュラムの変更に伴い、初習言語を必修としない理系学域の学生が授業を受講することは難しくなるが、この相談会を通じて、複数の外国語を学ぶ意義を伝えることは続けていきたい。

(三上純子記)



## 留学支援事業

### 留学準備授業

英語II、IIIでは、外国人留学生とのジョイントクラス、TOEFL/IELTS準備クラス、アカデミックスキル、語学研修事前学習などの留学準備授業を開講しました。特に、今年度からはタフツ大学との連携により設置されたスーパーグローバルELPセンターにて英語IIを開講し、TOEFLとIELTSの体系的対策指導を行いました。また、英語III専門セミナーや英語IIディスカッションにおいても異文化適応をテーマとした授業が行われ、異文化適応に関する文献を英語で考察し論理的に意見を述べることで、留学後の異文化接触に対応する知識と学術英語運用力を養成しました。

(根本浩行記)

### スーパーグローバル英語プログラム (学生向け)

平成26年度「スーパーグローバル大学創成支援事業」に採択された本学は、平成27年4月に「スーパーグローバルELPセンター」を設置し、米国・タフツ大学からの派遣講師による英語研修プログラムを実施している。今年度、TOEFLとIELTSの試験対策(前期)、海外の大学の授業の疑似体験(後期)から構成される「学生向け」研修を当センター担当者で考案し、通年の「英語 II」として開講したところ、38名の学生が集まった。特に派遣留学生にとって、ここでの経験が留学先での積極的な授業参加につながることを期待したい。

(榎本剛士記)

### 初習言語の語学研修 レーゲンスブルク大学・台湾師範大学・北京語言大学

本センターの教員(早川・矢淵)は、それぞれレーゲンスブルク大学の語学研修とデュッセルドルフ大学の現代ドイツ事情研修(8/28~9/25)、北京語言大学の語学研修(8/3~28)、台湾師範大学の語学研修(8/10~28)を担当しました。参加者は順に21名、2名、4名でした。最近の世界情勢から気苦労の絶えない仕事ですが、研修を終えた学生が外部試験でよい成績をおさめたり、派遣留学に応募したりするのを見ると、多少なりとも報われた感をいただきます。

(矢淵孝良記)



## 検定試験・検定模擬試験

### IELTS

IELTSの学内受験を年4回（7月、9月、1月、3月）実施した。受験者数は年々増加傾向にあり、今年度は7月が24名、9月が19名、1月が19名、3月が25名で計87名となり、一昨年度の55名、昨年度の68名を大幅に上回った。この学内受験制度により、学生たちは確かな目標設定のもと留学に向けた学習をより計画的に進めることができるようになり、派遣留学先で要求される入学基準スコアの6.0もしくは6.5以上を取る学生の数も増えてきている。また、学生たちが自主的に行っている「IELTS勉強会」の活性化に繋がっていることから、学内受験が着実な成果をもたらしていることがわかる。来年度も年4回の実施を検討しており、派遣留学支援の体系化に今後とも貢献していきたい。（根本浩行記）

### ドイツ語検定試験・ドイツ語検定模擬試験

2015年度秋期ドイツ語技能検定試験（独検）は、12月6日に本学総合教育講義棟で行われた。本学学生の級別受験者数（延べ数）と合格者数（括弧内）は、以下の通りである。

	春期	秋期	合計
1 級		1 ( 0 )	1 ( 0 )
準1 級		6 ( 5 )	6 ( 5 )
2 級	8 ( 3 )	15 ( 4 )	23 ( 7 )
3 級	1 ( 1 )	31 ( 24 )	32 ( 25 )
4 級	1 ( 1 )	15 ( 11 )	16 ( 12 )
5 級	0	2 ( 2 )	2 ( 2 )
合計	10 ( 5 )	57 ( 46 )	67 ( 51 )

秋期試験の2級、準1級の受験者数の増加は、本学が実施しているサマーコースや交換留学の成果と言えよう。3級の受験者数と合格者の増加は、サマーコースの事後学習と2、3級を対象に複数回行った独検対策講座の効果があつたのではないかと考えられる。対策講座は学生の学習支援の一環として、今後も継続して行いたい。反省点としては、昨年度に比べ、春期受験者数が減少した点が挙げられる。今後は、春期の受験者への対応も強化していきたい。（早川文人記）

### フランス語検定模擬試験

2015年度実用フランス語技能検定試験の日程に合わせ、春は6月15、17日、18日、秋は11月6、9、

12日に、2、準2、3、4、5級の模擬試験を実施した。参加者は2級1名、準2級7名、3級9名、4級9名、5級2名であった。

仏検受験者は77名で、3年続けて70名を超えている（下記の表参照、括弧内は合格者数）。合格者については、今年度は準2級以下の合格率が高く、全体としても85%近い合格率であった。課題であるDELFの方は、派遣留学候補者への個別指導等を徐々に進めているが、今後はフランス語履修者全体に対しても早い段階で情報提供を行い、積極的な学生の挑戦を支援していきたい。（三上純子記）

	春季 (6/21)	秋季 (11/15)	合計
1 級	0		0
準1 級		3 ( 1 )	3 ( 1 )
2 級	4 ( 3 )	6 ( 2 )	10 ( 5 )
準2 級	4 ( 4 )	11 ( 10 )	15 ( 14 )
3 級	18 ( 17 )	4 ( 4 )	22 ( 21 )
4 級	9 ( 8 )	16 ( 14 )	25 ( 22 )
5 級	0	2 ( 2 )	2 ( 2 )
合計	35 ( 32 )	42 ( 33 )	77 ( 65 )

### 中国語検定試験

2015年度中国語検定試験は日本中国語検定協会の実施に合わせて例年通り三回行なった。

受験者および合格者の大幅減少が顕著な特徴であった昨年度に比し、今年度は幸いにも双方ともに持ち直し、合格者総数は昨年度から倍増という結果になった。日中関係が大学の中国語履修者数に及ぼす影響は、実に軽視できないものがあると言えるだろう。

教員としては3級の合格率アップが長年の課題であるが、あれこれ模索するも、なかなか好結果に結びつかない。又一方で4級の合格率の低さも気になるところである。これは端的にリスニング練習の不足を指摘できる。授業の中でもリスニング力を強化する練習を取り入れていく必要があるかもしれない。（杉村安幾子記）

	第85回 (3/22)	第86回 (6/28)	第87回 (11/22)	合計
1 級			0	0
準1 級	3 ( 0 )	0	1 ( 0 )	4 ( 0 )
2 級	5 ( 1 )	3 ( 1 )	3 ( 3 )	11 ( 5 )
3 級	8 ( 4 )	9 ( 6 )	5 ( 2 )	22 ( 12 )
4 級	13 ( 8 )	4 ( 4 )	3 ( 1 )	20 ( 13 )
準4 級	0	1 ( 1 )	5 ( 4 )	6 ( 5 )
合計	29 ( 13 )	17 ( 12 )	17 ( 10 )	63 ( 35 )

## 社会貢献事業

### 高校英語授業参観（高大連携）

「いしかわ教育ウィーク」（11月1日～7日）期間中の授業公開を利用し、当センターの英語教員数名が手分けして、いくつかの市内公立高等学校の英語授業を参観した。新学習指導要領のもと、教師が英語で授業を行う場面や、生徒が教室で実際に英語を使用する機会は確実に増えている。その一方で、特に上級生になるほど、「入試対策」に重点が置かれることも否めない。2016年度からの英語カリキュラム改編にあたり、本学の英語教育が、大学執行部が設定する英語外部試験の目標点のみならず、様々な制約の中で日々工夫を凝らす教師と、受験という制度に否応無しに巻き込まれる生徒の「現実」をまず前提としていることに、目を向けておきたい。

（榎本剛士記）

### 公開講座

当センターが社会貢献事業の一環として金沢大学公開講座に参加して、既に11年の歳月が経つ。今年も市民の皆さんから人気を博している各国シリーズで講座を開催、大テーマを「文化・文学にみる恋愛」とした。「近代」の産物とも言える恋愛が、各国の文化・文学においてどのように表象されてきたのかを分析・考察したものである。幸い好評裡に全5回を終えることができた。各回の小タイトルと担当者は以下の通り。

- 第1回 悲劇で成就する中国式恋愛 杉村安幾子
- 第2回 ロシア的恋愛の経済学 平松 潤奈
- 第3回 オーギー流社交術：多文化社会における恋愛事情の社会文化的考察 根本 浩行
- 第4回 ドイツ文化における挑発としての恋愛史 早川 文人

第5回 恋のフランス文学案内 三上 純子  
各国シリーズを継続していくのは、実はそう容易ではないのであるが、市民の方々の支持がある限りは応えていきたいとも考えている。（杉村安幾子記）



### サテライト・プラザ ミニ講演

金沢大学地域交流事業の一環として2015年11月8日、「いのちとつながる食卓」と題するミニ講演を本センター結城正美教授が行いました。“We are what we eat”と言われるように、私たちの心身は日々の食事で作られています。ふつう食事で気を使うのは食材の安全性や栄養であり、食べものの〈いのち〉に関心が向かうことは稀です。この講演では、人と食べものとの関係の豊かさを描く石牟礼道子や梨木香歩の作品を道案内とし、いのちとつながる食卓の呪術的でハイブリッドな世界を味わい、現代の食卓に映し出された社会的・文化的問題について考えました。講演会場の金沢大学サテライト・プラザと遠隔地配信を行った珠洲会場に、20代から70代まで計25名の参加があり、食といのちというテーマが世代を超えた関心であることがうかがえました。

（結城正美記）



## その他の活動

### 海外留学フェア2015

7月3日に国際機構主催海外留学フェア2015が開催され、本センターの教員は7つのブース（中国、フランス、ロシア、ドイツ、アメリカ、イギリス、オーストラリア）に分かれ留学・語学に興味がある学生の質問や相談を受けました。その他IELTS及びTOEFL iBTトライアルコーナーも設置し海外留学のための語学検定相談、質問など受けました。

（ダガンさかの記）



### オープンキャンパス

本センターは国際機構、留学生センターと協力し、8月10日、11日の2日間オープンキャンパスを開催いたしました。金沢大学での派遣留学、海外語学研修、奨学金制度などに関する説明をしました。今年度も沢山の高校生そして保護者の方々が来られ、派遣先や外国語学習について積極的に質問し教員の説明を熱心に聞く高校生の姿が見受けられました。

（ダガンさかの記）



### 購入語学教材

貸出し用教材 [2015年度購入分]

#### 英語

- ・ ENGLISH JOURNAL (CD付)
- ・ CNN ENGLISH EXPRESS (CD付)
- ・ 英検 全問題集 2015年版 (CD付)

#### ドイツ語

- ・ 独検過去問題集 2015年度版
- ・ 最効率！例文で覚えるドイツ語単語
- ・ やさしく歌えるドイツ語のうた 普及版
- ・ 独和辞典 他67点

#### フランス語

- ・ 仏検公式ガイドブック 2015年度版
- ・ どんどん話せるフランス語作文トレーニング
- ・ 完全予想仏検準2級 筆記問題編 他35点

#### ロシア語

- ・ プログレッシブ ロシア語辞典
- ・ ロシア語学術文体演習 基本編
- ・ 日常ロシア語会話ネイティブ表現 他9点

#### 中国語

- ・ 中国語ジャーナル (CD付)
- ・ 聴く中国語 (CD付)
- ・ 中検問題集 2015年度版 (CD付)
- ・ 合格奪取 中国語検定3級トレーニングブック 筆記問題編 他33点

#### 韓国語

- ・ 韓国語ジャーナル (CD付)
- ・ ハングル能力検定試験 過去問題集 2015年版
- ・ 中上級ハングル文法活用辞典 他9点

#### スペイン語

- ・ スペイン語基本単語辞典 他8点

#### ラテン語

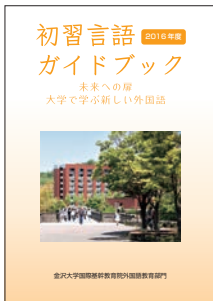
- ・ ラテン語とギリシャ語を同時に学ぶ 他6点



## センター刊行物

### 学習支援冊子

『初習言語ガイドブック』（2016年度版）

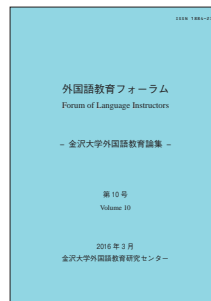


### 紀要

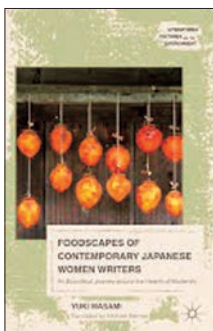
『言語文化論叢』第20号



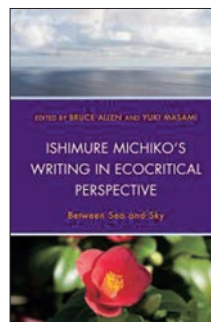
『外国語教育フォーラム』第10号



## スタッフの出版物



Yuki, Masami. *Foodscapes of Contemporary Japanese Women Writers: An Ecocritical Journey around the Hearth of Modernity*. Trans. Michael Berman. New York: Palgrave Macmillan, 2015.



Allen, Bruce, and Yuki Masami, eds. *Ishimure Michiko's Writing in Ecocritical Perspective: Between Sea and Sky*. Lanham: Lexington Books, 2016.



濱田麻矢・薛化元・梅家玲・唐顥芸編『漂泊の叙事——一九四〇年代東アジアにおける分裂と接触』勉誠出版、2015年12月、第4部第11章「金沢第四高等学校における齊世英」（杉村安幾子）



## 外国語教育研究センター年報 2015年度

2016年3月発行

金沢大学外国語教育研究センター 広報・社会貢献企画部編

920-1192 金沢市角間町

電話：076-264-5760 fax：264-5993

<http://fliwww.ge.kanazawa-u.ac.jp/>

[flijimu@adm.kanazawa-u.ac.jp](mailto:flijimu@adm.kanazawa-u.ac.jp)

